

日本常民文化研究所

共同研究 ブラジル日本人入植地の 歴史民俗学的研究

期間：2015年4月1日～2019年3月31日（科研費【基盤共同研究B】）、2019年4月1日～（共同研究）

〔所員〕 佐野賢治 内田青蔵 小熊 誠 須崎文代 泉水英計

〔客員研究員〕 森 武磨

〔建築研究家〕 米田誠士

〔鹿児島国際大学〕 黒瀬郁二

〔文化学園大学〕 渡邊裕子

〔サンパウロ大学〕 森 幸一

〔近畿大学工業高等専門学校〕 田中和幸

〔元興寺文化財研究所〕 角南聡一郎

〔研究協力者〕 加藤里織 李徳雨

〔渋沢史料館〕 永井美穂

（歴史民俗資料科学研究科博士後期課程）

〔日系移民研究者〕 ブルーノ・ヒサツグ

2019年度の活動

泉水 英計

共同研究「ブラジル日本人入植地の歴史民俗学的研究」は、民俗学の研究視点と調査手法をブラジル日系社会へと適用して「日本」との関係のあり方を明らかにすることを目的に、とくに具体的な文化表現の記録化を重視する共同研究として組織された。日本常民文化研究所所員を主要メンバーとしながらも、民俗学および建築学の専門家が所外からも加わっている。科研費基盤共同研究としての研究活動は昨年度をもって完了し、成果報告の場としてシンポジウムを開催した。今年度は、いまひとつの成果報告として報告書『ブラジル日本人入植地の常民文化』の出版準備をおこなった。



写真1 レジストロ植民地に残る日系移民家屋（深沢邸）

各メンバーは、昨年度のシンポジウムの発表原稿に加筆修正をおこないそれぞれ報告書用に論文の体裁を整えた原稿を執筆した。そのうちつぎの2名は、調査データの補充等の必要からサンパウロ州レジストロに再度出張した。

まず、2019年8月に建築班の田中和幸がレジストロ植民地内の六川邸と深沢邸にて、CADでの現状図面作成に必要なデータを補完するために実測調査をおこなった。田中は、これまでに収集した情報をもとにこの図面を分析することにより、窓枠形状の収まりが竣工年を推定するさいの判断基準となることをほぼ確実にすることができた。

つぎに、2020年1月に民俗・歴史班の泉水英計が、レジストロ植民地内で存続している新年祝賀会の参与観察をおこなった。参加者は、一昨年に調査した日語学校同窓会とほぼ重なり、日本人植民地時代からの地縁組織として唯一存続している団体が運営している。あわせて、昨年度のシンポジウムにて紹介された戦中戦後のレジストロの産業振興の功労者の活動について親族等へのインタビューもおこなった。共同研究では最後となる現地出張となるため、出版準備中の報告書に使用する予定の写真画像や、レジストロ日伯文化協会が管理する資料について著作権者および所有者に対し使用許可の交渉をおこなった。

レジストロの自治会文書の一部は、郷土史（『レジストロ植民地の六十年』1978）の編集に加わった松村栄治氏の所蔵資料が国立国会図書館憲政資料室に寄贈されているが、この共同研究では日伯文化協会の管理する同文書の提供を受け、その一部を印影および翻刻の形で公開するための準備を進めた。報告書は、この資料の部を含む民俗・歴史篇と、建築篇から成る2巻本として出版される予定である。



写真2 1936年の深沢邸



写真3 水流を跨ぐように建築された六川邸



写真4 日系一世がポルトガル語と日本語で書き留めた新年の挨拶

■ 2019年度の活動

○レジストロ市六川邸深川邸実測補充調査 2019年8月13日～20日 サンパウロ州レジストロ市 田中和幸

○レジストロ植民地史補足調査 2019年12月25日～2020年1月6日 サンパウロ州サントス市、レジストロ市 泉水英計

※本研究はJSPS 科研費 15H05172 の助成を受けたものです（2015年4月1日～2019年3月31日）